

若手保育者の成長過程に関する基礎的研究

高澤 健司⁽¹⁾・山田 真世⁽¹⁾・上山 瑠津子⁽¹⁾・田丸 敏高⁽²⁾

本研究は保育者としての成長過程を明らかにすることを目的として、新任の保育所保育士の1年目と2年目にインタビュー調査を行った。分析は、仕事についてから身についた知識・技能、今の仕事の見通し、保育の面白さの3つの視点から行い、概念を抽出した。仕事についてから身についた知識・技能では、実際に身についた知識や技能と、これから身につけるべき知識や技能に大別され、保護者対応や自己評価の認識、毎日の仕事の流れなどが抽出された。今の仕事の見通しでは、仕事上の見通しと生活上の見通しがあげられ、人事異動に関する言及や、自身の結婚や出産、見通しがもてないといった概念が抽出された。保育の面白さでは、保護者との連携や支援、子どもの育ちや成長の共有といった概念が抽出された。

キーワード：若手保育者、成長過程、インタビュー調査、児童福祉施設

問題と目的

保育所は、助産施設、乳児院、母子生活支援施設、幼保連携型認定こども園、児童厚生施設、児童養護施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設及び児童家庭支援センターとならぶ児童福祉施設であり、「すべて児童は、ひとしくその生活を保障され、愛護されなければならない」とする児童福祉法の中で位置づけられている。その保育所は「保育を必要とする乳児・幼児を日々保護者の下から通わせて保育を行うことを目的とする施設」（児童福祉法第39条）である。厚生労働省（2016）によれば、全国に施設数26,265ヶ所、定員2,557,133名、常勤換算従事者数は保育士と保育教諭あわせて407,290名（いずれも幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園を含む）（2016年10月1日現在）であり、保育所をはじめとした児童福祉施設は多様な専門性をもつ職員が共働して、子どもたちの生活と発達を保障する場となるべく日々努力を重ねている。

保育に対するニーズの高まりもあって施設数、従事者数ともに年々増加しており、毎年新たに保育者として着任する者たちも多い。その一方で保育所から離職をする者も少なくなく、全国保育士養成協議会（2009）が保育士養成校卒業後2年目、6年目、11年目の卒業生を対象に行った調査によると、卒業直後職場と現在の職場が同じである割合が公立認可保育所で78.8%、私立認可保育所で69.1%となっており、2割から3割の保育士が卒業後10年のうちに職場を離れている。その理由として、「職場の方針に疑問を感じた」や「職場の人間関係」「残業の多さ」「継続できない職場の雰囲気があった」「心身の不調」などがあげられ、保育者としての力を発揮する以前に離職を余儀なくされることがみられる。

こうした保育者の成長過程やキャリア形成の実証的な研究は少ないが、坂井・山本（2015）は公立保育所の園長経験者へのインタビューを通して、保育者のキャリア形成のパターンやキャリア阻害の問題や対象の可能性について検討している。そこでは、正規雇用

(1) 福山市立大学教育学部児童教育学科 e-mail: k-takasawa@fcu.ac.jp (高澤健司)

(2) 福山市立大学

の保育者キャリアの最初の段階には新人の段階が示され、その内容として保育者資質の基盤、パートナーとのマッチング、新卒2年目の危機があげられており、新卒1年目は許されても2年目には許されないプレッシャーが影響を与えているのではないかと示している。また、高澤・田丸・高橋・山田・久留嶋・今井・木曾・中原（2016）では母子生活支援施設職員にインタビューを行い、職員間の連携や気持ち（感情）のコントロール、仕事とプライベートとの気持ち（意識）の切り替えといった視点から職員の成長過程について検討した。その結果、職場における情報共有や互いに話しやすいといった職場の環境づくりの検討などが必要であることが示された。

これらを踏まえ、本研究では新任の保育所保育士の1年目と2年目にインタビュー調査を行い、保育者としての成長過程を明らかにすることを目的とする。この研究は成長過程に関する基礎的な概念を検討することを目的とするため、個人の成長は基本的に追わず、概念抽出を中心に分析を行う。

方法

1. 調査協力者：四年制大学を2015年3月に卒業し就職した中国地方の公立初任保育士、1年目は5名（男性1名、女性4名）、2年目は4名（男性1名、女性3名）。うち、1年目と2年目両方に協力した方は3名であった（表1）。

表1 調査協力者の担当クラス

	1年目	2年目
Aさん	3歳児クラス(複数担任)	2歳児クラス(複数担任)
Bさん	1歳児クラス(複数担任)	3歳児クラス(一人担任)
Cさん	1歳児クラス(複数担任)	5歳児クラス(複数担任)
Dさん	2歳児クラス(一人担任)	—
Eさん	2歳児クラス(複数担任)	—
Fさん	—	3歳児クラス(一人担任)

2. 実施時期・場所：2015年12月および2016年12月から2017年2月、調査者所属大学の教室にて実施。

3. 調査内容：1年目では「現在の仕事の内容」「仕事上心がけていること」「職場におけるあなたの役割」「就職以降身につけた知識や技術」「現在行われている研修」「今の仕事や生活についての見通し」「保育者同士の仲の良さ」「職場外の保育者との情報

交換」「仕事とプライベートの切り替え」「現在の仕事を選んだ理由と仕事のやりがい、しんどいと感じること」「休暇のとり方」「仕事を辞めたいと思ったことはあるか」「保育の面白さ」「保育者を目指している学生に対して一言」について、2年目では1年目の項目に加えて「2年目になって子どもの見方が変わったところ」「2年目になってからの仕事以外での生活の変化」について、半構造化面接で意見を聴取した。面接時間は90分から120分ほどであった。概念抽出にあたっては、心理学や幼児教育を専門とする大学教員3名で協議した。

4. 倫理的配慮：調査内容を調査協力者に確認し、参加承諾書に署名をしてもらった。また、調査協力者の承諾を得てICレコーダーにて発話の録音を行った。

結果と考察

本研究においては保育者としての成長過程における「仕事についてから身につけた知識や技能」「今の仕事についての見通し」「保育の面白さ」の3つの視点に関する発話から概念を抽出し、考察を行う。

1. 仕事についてから身につけた知識や技能

得られた発話は、実際に身につけた知識や技能（個に応じた対応、保護者対応、毎日の仕事の流れ、自己評価の認識、発達を踏まえた保育、子どもの反応のとりえ方など）と、これから身につけるべき知識や技術の必要性（保育スタイルの確立の必要性、感情のコントロール、保護者対応の必要性、子どもの気持ちを支える必要性、研修の必要性、自己評価基準の設定など）に分けられた。これらの概念について、1年目と2年目では内容や概念に若干の違いが見られたことから、以下では1年目と2年目それぞれの発話から見られる特徴について検討する（表2、3）。

まず1年目でみられた身につけた知識や技能として、「個に応じた対応」があげられている。「その子を取り巻く環境はその子だけのものなので」（Aさん）という発話から、保育所内だけでなく家庭環境も見すえた子どもの見立てが重要であることが認識されていることがうかがえる。「保護者対応」では、「学生の時にはしたことがなかったとこなので」（Bさん）という発話から保育実習や保育ボランティアでは行うことはなかった保護者対応について、職員として経験することが特徴として語られている。また、「食事しまし

表2 これまで身についた知識・技能（1年目）

協力者	発言	概念
Aさん	その子を取り巻く環境はその子だけのものなので。 自分の尊敬してる先生に言われたんです。真似してただけじゃ育たんけん、それを一回自分に取込んで、自分のものにしていけよと。 でも自分なり、自分なりのことをそこに入れ込んだらこう子供らの反応が変わったなとか子供らの姿が変わったなっていうのがあるんで、あ、じゃあ次こうしてみようかなっていうのがもう、そこは自分じゃないですか。	個に応じた対応 保育スタイルの確立の必要性
Bさん	うーん、まだまだだんっていうのが一番ですし、さっき、あの一、怒らないようにとか叱らないようにとは、思ってるんですけど、いら一つとしてしまったら、ちょっとそれが子どもに伝わってしまう。 もう5歳ってなるといろんなことが分かって、いろんな気持ちを持つ子たちの、なんて言うんですかね、支え方も、ちょっと、私にはまだできませんって思いますし、まだまだですね。 保護者の対応は、4月になって初めてやらせてもらった部分なので、学生の時にはしたことがなかったとこのので、その経験としては、保護者の対応を経験できたっていう部分も含まれます。	感情のコントロール 子どもの気持ちを支える必要性 保護者対応
Cさん	まあ、なんか保護者もそうなんですけど、やっぱり、あの、子どもがお腹の調子が悪いとか、下痢が出るとの、ジュースを飲ませるとか、ヨーグルトを食べさせてくとか。(略)で、話をして、あの、お母さんこういう時には、あの、お腹に優しいものがいいけん。って言っても、なかなか変わらないとかいうことがあるので。まあ、もちろん、そういうお腹の調子が悪い時には、まあ、乳製品食べないとかいうぐらいは、私もわかるんですけど、まあ、それから、どうやって伝えるとか、その、家でそうじゃけえって、保育所でも普通にご飯を食べるんじゃないかって、じゃあ、食事変更ししようとか、今日の給食はこれじゃけん、キュウリがあるけん、お腹が冷えるけん、変えようとかいうのが、まあ、技術と知識っていうか、まあ、知識でいうと、もともと、その、お腹が冷えたらキュウリがいいけんとか、ミカンがいいけんとか、ぐらいはわかるけど、それから技術として、こう、その日どうやって、この子が過ぐすかとか、お母さんにどうやって伝えるかとか、まあ、それこそ、お母さんが、え、いいよ。とか言っても、やっぱり変えとかんと、うーん、それから子どもがひどくなってもいいけん、っていうところで、うーん。その技術がやっぱり、難しいかなと思いますね。	保護者対応の必要性
Dさん	日誌も、週案とかたてるんですけど、土曜日とかに来週月曜日からとかのを。その時に、先生が「難しいと思うけん、ここに3年前の2歳の日誌があるけんそれ見て書いていいよ」って言うてくれたんで、一応それ見ながら、運動会前は、こうやってちょっとずつサーキットの遊び、ジャンプとかよじ登りとかトンネルとかのいろんな動きがある中で、1日トンネルして、1日ジャンプして、1日はリズムして、みたいなのをやっているのを見て、あ、こんな感じにして完成させていくんだなって。そういう意味では過去のものを見ながらやっていますね。今はほんとに全部。クラス便りとかも去年のを見ながらしたりとか。	毎日の仕事の流れ
Eさん	2歳に関してはというと、70、80(%)の仕事の身につく具合)いけると思うんですよ。だけど、もつ年齢が変わったら、全部がわからなくなるんです。だから、今の仕事っていうのを保育士としたら、10%。	毎日の仕事の流れ

表3 これまで身についた知識・技能（2年目）

協力者	発言	概念
Aさん	自己研鑽のために研修とかは、まあ自発的にじゃないですけど、アナウンスがあつたら行くんで、そういうところで、あ、こういうことやるとかそれこそ人の保育見る機会とかあるんで、それに至る過程とかが詳細に書いてある書類とかみたら、おお、応用できるなとか、こういうねらい持ったら子どもがこうなんじゃみたいなのは、まあ、技術というよりは知識の面で、ああ、そういうところあるなみたいなのは身についたと思うんですけど、それを技術にして現場で還元できてくかっていうと忙しさにかまけてできてないところが多いと思う。 ちょっとねらいの立て方おかしかったなっていう時も。自分に疑問を持つことが多いんで2年目は。なんか成長してないなとは思いますが。	研修の必要性 自己評価基準の設定
Bさん	できてないところばかりに目が向いてたんですけど、ちょっとでもできるところに私が目を向けれるようになったのかな。	自己評価の認識
Cさん	5歳ということでは1歳とは全然ちがうところで、こうやってしていくんよってやりながら教えてもらったので5歳の1年の流れとかつきたい力とか教えてもらったので、身についたかと言われると怪しいんですけど、そういうところを知れたっていうので身についたかなと思います。	発達を踏まえる
Fさん	私ひとりだし、集団をまとめようと必死だったところがあつたけど、一人ひとりを見ていいたら、その子の思いが…もちろんA君にもA君なりの思いがあつて参加できてないとか、バク(かみつき)するのもしうだし…。そういうのに気付けたのが私の1年間とあと8か月で感じました。 子どもとの関わり、今までは3人担任で見とつたから「かわいい」みたいになつたんですけど、「かわいい」だけじゃなくなつたけど、3歳になつたらある程度分かってくれることも増えて、まわりの子の理解も出てきたし、こつちが分かってあげようとしないとだめだし、今は満たしてあげたってところで。	個に応じた対応 子どもの反応のとらえ方

ようとか(略)技術と知識っていうか」(Cさん)という発話から、大学で学んだ知識や知見を活かしつつ専門職としての対応を模索している姿がうかがえる。そして「毎日の仕事の流れ」があげられ、「日誌も、週案とかたてるんですけど、(略)あ、こんな感じにして完成させていくんだなって」(Dさん)や、「2歳に関してはというと、70, 80(%)いけると思うんです」という発話から、1年目に任された日々の仕事を通して保育所における仕事の流れを身につけていることがうかがえる。ただ、「だけど、もつ年齢が変わったら、ぜんぶわかんなくなるんです」(Eさん)とあるように現在の担当をベースにしており、全体を見渡した仕事のながれとまではいかないことが示された。

次に、1年目でみられた必要性を感じる知識や技能として「保育スタイルの確立の必要性」があげられている。「真似してるだけじゃ育たんけえ、それを一回自分に取り込んで、自分のものにしていけよと」(Aさん)との発話から、職業人としての保育者の独自性や個性について今後考えていく必要があるという認識が見られた。また、「感情のコントロール」では「怒らないようにとか叱らないようにとは、思ってるんですけど、いらっとしてしまったら、ちょっとそれが子どもに伝わってしまう」(Bさん)と発話され、特にネガティブな感情を抱いたときにおいて子どもの前で気持ちをコントロールしていく必要性が語られている。

2年目になると、身についた知識や技能では「自己評価の認識」があげられ、「できてないところばかりに目が向いてたんですけど、ちょっとでもできるところに私が目を向けれるようになったのかな」(Bさん)という発話から、2年目になることによってある程度自分を客観的にみる視点ができてくることが示唆された。また、「発達を踏まえる」において「5歳ということで1歳とは全然ちがう」(Cさん)という発話から1年目とは異なる年齢を担当することによって、子どもの発達に応じた保育を実感していることが認められた。「子どもの反応のとらえ方」も「今までは3人担任で見とったから(略)3歳になったらある程度分かってくれることも増えて」(Fさん)と、担当年齢が1年目と変わったとともに、複数担当から単独担当になったということもあわせて、子どもの反応

から自らの仕事に対する責任を示唆する発話が見られた。また、1年目と同様に「個に応じた対応」概念の発話もFさんから見られ、集団の中における子ども一人ひとりを見ることに気づくことが若手保育士の成長過程に見られることが示された。

2年目において語られた知識や技能の必要性では、「研修の必要性」と「自己評価基準の設定」があげられた。「研修の必要性」では「それに至る過程とかが詳細に書いてある書類とかみたら、おお、応用できるなどか、こういうねらい持ったら子どもがこうなんじゃみたいなどころ」と他の保育者の保育を見ることや、「技術というよりは知識の面で、(略)それを技術にして現場で還元できてるか」と知識と技術の往環ができる研修の必要性が語られていた。「自己評価基準の設定」では、「ちょっとねらいの立て方おかしかったなっていう時も。自分に疑問を持つことが多いんで2年目は」という発話から、自分の保育者としての評価の基準を立てようとしている姿勢がうかがえた。

以上のことから、1年目と2年目では共通する概念がある一方で、1年目は初めて体験する仕事や経験に対しての対応といったことがあげられるのに対して、2年目では比較的客観視したなかで身についたことやこれから自分にとって必要なことを認識していることが示された。

2. 今の仕事についての見通し

得られた発話は、仕事に関する見通しを述べた発話(年度末、年間の保育スケジュール、人事異動、職場文化、園文化、離職・復職など)と、生活に関する見通しを述べた発話(結婚、出産、育児など)に分けられた。また、これらの事態に関しての心理的な側面(人事異動への不安、モデルを見ることによる仕事と生活の両立への不安など)も語られていた。1年目、2年目ともにほぼ同様の発話概念が見られたことから、以下では1年目と2年目の発話の共通性を述べた上で、違いについて言及する(表4, 5)。

まず、1年目と2年目では長期的な見通しを持つことができていないこと(「見通しの持てなさ」)が共通して挙げられる。見通しが持てない理由は、例えば「だって保育所生活が初めてですから、子どもたちと一緒に、行事に関しても、なにをすりゃあええんか(わかならい)。保育士としてどう動きゃあええんか

表4 今の仕事についての見通し(1年目)

協力者	発話	概念
Aさん	頭の中は、これ(来年の4月1日と、いつか来る異動の日)でいっぱいです。	年度末、人事異動への言及
	生活面でいやあ、ま、いずれ、家庭を持ちたいとかそういうのはあるけど、今は今のこしか今は考えてないというか、考えられない。	生活面の見通しの持てなさ
	仕事に関して、1年目はホンマ見通しが持てないんです。だって保育所生活が初めてですから、子供たちと一緒に、行事に関して、何をすりゃあええんか(わかならい)。保育士としてどう動きゃあええんかも全然分からんし。	保育の見通しの持てなさ
	1年目でこんなもんでえんかっていうのが全然見通しが持てないです。	自身の見通しの持ち方に対する相対的な言及
	今日一日、明日一日の見通しが持てないから、一年の見通しなんか持てるはずもなく。	保育についての長期的な見通しの持てなさ
	ただわかっているのは、来年からは、1年目じゃないぞと(いうこと)。それだけの見通しを持ってるんで、一人でやらにゃあ、いけんことが増えてくるぞと(いうことは分かっている)。	2年目に生ずる仕事上の役割の変化への気づき
	この保育所を離れたとき、保育所ってどこもいっしょじゃないんです。その常識(今の保育所の地域性、文化、やり方)が通用しないところに行くってなると、怖いっすねえ。(略)周りは初めましての人ばかり、子供もはじめましての人ばかり、保護者もはじめましての人ばかり。1からスタートか。(略)まさに見通しが持てなくなって、リセットになるんで一回。	園文化、職場文化への気づき 人事異動することへの不安 環境が変化することへの不安
Bさん	いろんな保育を見て、経験してきとるけえ、保育士って、一人一様じゃないんじゃないろうなと。どこ行っても通用する保育士になれば、ま、なかなか難しい、ですけどね。	異動を通じた成長への期待と不安
	(結婚を)27ぐらいかな。30までに産む。(育休を)取って、復帰する。	結婚 出産 育児による休職と復職
Cさん	たーだ、上の先生見るとめっちゃくちゃ大変そうなので。所長も、家庭があるけど、まあ他の先生との話、同居じゃけえできるとよねみたいな、仕事か。(略)まあ仕事をする、しながら子どもを育てるにしても、ちょっとその関係(親子関係)はちゃんとせにやいけんなって思いました。	育児による休職と復職 モデルを見ることによる仕事と生活の両立への不安
	本当になくて。	見通しの持てなさ
	公立なので、育休・産休も取れるよっていうのもあったし、あの本当に女の人の職場なので、そういう意味では家庭をもったって、子どもが生まれたって、働けるだろうなっていう思いは漠然とあったんですけど。今、入ってからは、うーん、なんというか。先のことは分からない。何があるかわからないなって思いますかね。	就職したからこその見通しの持てなさ
	例えば結婚して、子どもができてっていうのも、もちろん働き方も変わってくと思うんですけど、なんか、こう、今、主婦の先生がおっちゃって、その先生が、子育てをしながら、家庭で家事もしながら、仕事もしとってっていうのが、自分にできるかなっていうのがすごい思っ。	モデルを見ることによる仕事と生活の両立への不安
	やめるタイミングじゃないですけど、やめるならいつかな?みたいな。結婚した時かな?みたいなっていう風にちょっと考えたり。	離職への言及
Dさん	本当、1年1年ですかね。見通しもてるというのとはとてあえず3月まで、このクラスでこの先生と、この子どもたちを、っていう感じですかね。	年度末
	結婚は、したいですね。それまでは、頑張って働きたいですね。してから、どうしようかなって。	自身の結婚 結婚前後の仕事の継続についての迷い
	まあ小学校上がるくらいまでは、なんか、近くで見てあげたいかな、みたいな。(略)寂しい思いさせるんだったら、ある程度そういうのが無くなってからまた働いたらいいんじゃないかなって。小学生になるとね、徐々に、そんな。	育児による離職と復職
Eさん	特にはないですけど、28とか27くらいまでには結婚したいですね。30代までには子ども産みたいですね。高齢出産になったらしんどいじゃないですか。	結婚 出産
	見通し全くないです。	見通しの持てなさ
	でも3年目以降は絶対、3、4、5歳の担任ですね。	次年度以降の仕事上の役割への気づき
	結婚しなかったら、ずっというんじゃないですか。自分の子どもは、やっぱり自分で育てたいんですよ、なるべく。ちっちゃいうちは。だから、育担あるじゃないですか、ああいう感じで働けるんだったら、全然働こうとおもったら、働こうと思うんだけど。(育休、産休)取れるじゃないですか。それが取れれば、全然働こうかなって感じです。	育児による休職と復職

表5 今の仕事についての見通し(2年目)

協力者	発話	概念
Aさん	なんか今考えてるの異動のことだけかな。なんか、すごいこの質問が難しい。今後の出来事は全然見通しててないな。出来事っていうか職歴上起こる重大な出来事って感じで僕捉えてるんですけど。異動がやっぱ大きいかなとは思いますが。	人事異動
	今2年目のやつがこれくらい仕事ができるようになってみんなが思ってる分の仕事ができるかどうかどうかっていうのはあるし。なんか見通しを持つ余裕もないというか。今を生きてる。	見通しの持てなさ
	異動って職場の人間関係が変わるっていうのは、そこはまあ順応できたらできたていんですけど、子どもが変わるんで、丸ごと。それってなんかすごいことだなと思って。地域と子どもが変わったら多分保育なんかまるっきり変わるもんなんだと思ってんで。(略)全く違う会社みたいな感じだと思うんでそれは怖いっすね、異動。異動怖い。	職場文化(職場の人間関係の可変性)への気づき 園文化(子ども、地域環境の固有性)への気づき 移動することへの不安 環境が変化することへの不安
	どの仕事でも働き初め、2年3年はしんどいんじゃないかなと思って。そこで離れて別の職場に就いてもまた2年目3年目くらいに同じ悩みじゃないけど、何かしんどさにぶち当たって、はあ、じゃあ仕事変えよってなったら一緒にじゃないですか。だったらちょっとでもやりがいを感じれるところにおりたいし。	現在の仕事のしんどさ やりがい
	まあ仕事自体は楽しいんで、子どもの育ち、ああこなんか楽しいなうれいって本気で思える時がある仕事なんです。他の仕事をしたことがないから、この楽しさとこの達成感と喜びを感じれる職を果たして次見つけられるだろうかってなったら、それって難しいよなってなって。	仕事の楽しさ
	芝生が変わりやあ思いも変わるんじゃないかと。(略)ちょっと異動も期待しつつ。他のフィールドにも立ったらこの思いも変わるのかどうなのか。	人事異動により職場環境が変わることへの期待
Bさん	保育士の数だけ保育があるんでいろんな人の保育見たら自分の保育変わってくと思うんで、なんかもっといろんな保育士さんにあって、いろんな人間関係の中で揉まれていったら、それなりに耐性つくし	人事異動を通じた成長への期待
	(イメージとして)30までに産みたいな、一人ぐらい。ぐらいです。	結婚 出産
Cさん	続けるつもりはあります。でも、ほんとに子ども持ちながら仕事されとる先生とかすごい大変そうなんで、できるんかなっていうのはあるんですけど。(略)そう。同居じゃないと仕事続けられん。	育児と仕事の両立 モデルを見ることによる 仕事と生活の両立への不安
	特にないですね。	見通しが無い
	結婚して子どもがうまれて育児をとってそれから働くのかとかもう辞めるのかとかそういうことですね。	ライフイベントとそれに関わる離職・復職についての気づき
	いつまで続けるのかっていうところでやっぱり仕事をしていく中でしんどいところもいっぱいあるんで、いつまで続けられるのかなこんなことって…やっぱり持ち帰っての仕事が多いし、休みの日何してるって聞かれると仕事してるって感じなんですよ。	現在の仕事と生活の両立のしんどさ
Fさん	組んでる先生は家に帰ったらお母さんで家事も全部されて子どもさんもいろいろあって大変でやられてるけど私はできんと思って…そういう状況になったらするのかもしれませんが実際今はできそうにないなって思う気持ちの方が大きいのでいつまで続くんかなって。	モデルを見ることによる 仕事と生活の両立への不安
	私ほんとこの先見えてないんですよ。何にも…「ここでこうしよう」とか計画も見通しも何もなく…正直無いですよ。(略)ほんとにただ毎日こなすことが私の中でまだまだいっぱいいいいっばい。	見通しの持てなさ 現在の仕事への言及
	普通に3月になったら「今年度が終わるなあ」「4月からは3年目だ」という気持ちしかないんですよ。	年度末
	人生っていうのは全く見えてないですねー。	生活面の見通しの持てなさ
	4月が始まって「10月の運動会があるな」とか「その前は忙しいな」とか、参観日がけこうあって5月も6月もあって…。7月夏祭り8月はプール参観があるんですよ。9月が祖父母参観があって…。10月が運動会、11月が参観日、12月が発表会で、1月は無いかな、2月はまた参観があるんですよ。で餅つきもあって…。「あー、参観があるなあ」とかそういうぼんやりと。	保育の年間計画
	「3年目は何歳持つんかな」とか思いながら。	次年度の仕事上の役割

も全然分からんし。」や「ほんとにただ毎日こなすことが私の中でまだまだいっぱいいっぱい…」といった発話に見られるように、現在の仕事を理解し、対応していくことに力が注がれているためであると考えられる。また、1年目のインタビューからは、就職する前に漠然と保育士としての仕事や生活のイメージを持っていたが、働き始めたからこそ仕事の内実がわかり、見通しが持てないといったパターンも見られた。

長期的な見通しが持てないといった類似点はあるものの、2年目になると保育所での1年間の過ごし方のイメージが掴めてきており（例えば「4月が始まって「10月の運動会があるな」とか「その前は忙しいな」とか、参観日がけっこうあって5月も6月もあって…」）、具体的に1年間の保育をイメージして見通しを持ち保育をしていることがうかがえる。

仕事に関する見通しでは、1年目、2年目ともに人事異動等で職場の環境がいつか変わりうるが見通されている。この時、現在の職場環境や保育の文化に気付いているがために、現在培っている経験や知識が他の保育所で通用するのかという観点から人事異動への不安が高まっている。一方で、様々な保育を知りたいという思いもあり、これは人事異動を通じた成長への期待が示されたといえる。

生活に関する見通しでは、1年目と2年目ともに結婚、出産、育児が挙げられた。これらライフイベントの具体的な時期は、出産時の年齢を基準にして考えられていた。育児と併せて仕事の継続について語られており、育休や産休を活用して仕事を継続していくという見通しが語られていた。しかしながら、育児と仕事を両立する身近な同僚を見ている事や（例えば「続けるつもりはあります。でも、ほんとに子ども持ちながら仕事されとる先生とかすごい大変そうなんで、できるのかなっていうのはあるんですけど。）」、既に仕事と生活の両立にしんどさを抱えていることが（例えば「やっぱり仕事をしていく中でしんどいところもいっぱいあるので、いつまで続けられるのかなこんなことって」）、育児をしながらの仕事の継続に不安感を抱かせていた。

3. 保育の面白さ

得られた発話は、子どもに関するもの（子どもの育ちや成長、保育者の働きかけに対する子どもの反応な

ど）と保育に関するもの（行事・教材の共有体験、保護者連携や支援など、）の2つの概念に分けられた。各概念は、1年目と2年目と共通して語られていたため、各概念の中心的な下位概念について具体例を示しながら説明していく（表6、7）。

まず、子どもに関しては、日常の中で子どもの育ちや成長（子どもの育ちや成長）を感じたり、捉えたりすることが挙げられた。例えば、「出来なかったところが出来るようになったところを、一緒に喜べるのは面白いかな。」（Dさん）や「子どもが1歳だから、まあ、成長がすごく大きくなって、しゃべれなかった子がしゃべれるようになったり、ハイハイの子が、歩けるようになったりっていうのが、すごく見れるので。まあ、すごい、そこは、面白い。」（Cさん）の発話にみられるように、日々の保育の積み重ねの中で、子どもの発達や変化が目に見える瞬間や成長が実感できることは、保育者にとって喜びとなり、保育の面白さにつながっていた。さらに、「やっぱり自分のクラスの子どもたちが、私の期待に応えてくれたとき。（は面白さと感じる）こっちが期待に応えてくれるように仕向けるんですけど、期待に応えられるように練習も一緒にするんですけど、やっぱりその期待していた以上のことをしてくれたりしてくれるんですよ。そのときにやっぱり子どもってすごいなあって。全然予想していた姿と違うわ（と思う）。」（Eさん）の発話にみられるように、子どもとのやり取りの中での子どもの反応（保育者の働きかけに対する子どもの反応）は、保育者の保育に対する手ごたえを感じられるときでもあり、また予想外の反応は、子どもを捉え直す瞬間にもなっているようだった。

次に、保育に関しては、子どもと行事を一緒に作り上げることや教材を味わう（行事・教材の共有体験）が挙げられた。例えば、「発表会はすごく楽しかった。私自身が。（略）私出る人、だから練習も一緒にやる。（略）子どもたち同士で何とかちゃん、何とか言うんよって違う動物の子がパオーンって言わんと、ゾウさんパオーンって言うんよ。って、言ってるのがすごい面白くて、それをうまく私がつなげていくのもすごく楽しくて、もう発表会すごく楽しかったです」（Eさん）の発話にみられるように、発表会で子どもを指導するだけでなく、一緒に一つの発表会を作りあげる体験は、子どもたちと喜びや楽しさを共有する場にな

表6 保育の面白さ(1年目)

協力者	発話	概念
Aさん	面白さね。保育の面白さ、それ、仕事でって、面白さか。保育っていう仕事って言うところだと、まあ、やっぱり、なんているん。子育てではないんじゃないかと、育てる、手という仕事じゃけえ、ま、花に水をあげるのと一緒で、子どもたちのささいな変化、育ちが見れるのは、面白いつす。で、こんなこともできるようになったんじやっていう愛着もわいてくるから。そこは面白いですよ。で、こっちが投げかけたり、楽しいことをやったらええと、子どもらも喜ぶし、その反応を見るのが面白いです。で、今だと、実習時代の子たちがもう3年、位たって、小学生になったりとか。地元の保育所で実地体験をしたので、あの会うんですよ。やっぱり、子たちを見ると、ま、うれしくもあり、さびしくもあり、子どもが大きくなるっていうのって、面白いな。楽しいし、人間の本質かなとまで思ってるんで。育ちを見るっていうのは、あっこんなに大きくなって、なに、今分数しようん。みたいな。こんな、漢字書きよるん。うれしいですよやっぱり。じゃ、ま、面白さっていう面だと、子どもの変化が見られるところ。子どもが育っていくところを、一番、一番じゃないけど、間近で。	子どもの育ちや成長
	さっきも言ったんですけど、ま、心の根っこ。っていう。ま、歌もあるんですけど、そういう。心の根っこを育てる仕事なん。その根っこの上にどんな芽が出て、どんな花が咲いて、はたまたどんな種を。って、ところまで考えると、もう、夢しかないですね。夢が広がるというか。	子どもを育てること
	責任も感じてきよるけえ。それはあるんじゃないかと、やっぱりその、自分がかかわった子どもが大きくなったのを見るんです。最近、さっき言ったんですけど、小学校に行ったりとか、運動会で走り回ったりとか、子どもって、勝手に大きくなるんじゃないかと。それを見守れたっていう、感覚。一時期でも、そんな自分を覚えてくれたりしたら、なおいっぱいじゃないですか。	子どもの成長の一端を担う責任
	今日一日を見るのも大事じゃけど。そのために、週、週の計画。月、月の計画。年の計画、立てるかな。子どもたちの行く末、間て考えて保育できる人がやっぱり、いい保育士だと俺は思うんで。さっき言いましたけど、根っこなん。	短期的と長期的な視点
Bさん	保育の面白さ、あー、でも、やっぱりあれですかね、目に見えて子どもの成長が分かること、やっぱり毎日一緒にいるんで、その、その子の成長が嬉しい子が、私のことも慕ってくれてるっていう嬉しさ。	子どもの育ちや成長
Cさん	は一、面白さね。そうだねえ、まあ、もう、なんかいろいろ話してるので、その辞めたいと思ったことあるじゃないかと。あの、楽しむ余裕がないなって思ってるというか、思う時もある。うーん。だからなんか、そうだけど、やっぱり、その、子どもが1歳だから、まあ、成長がすごく大きくて、しゃべれなかった子がしゃべれるようになったり、ハイハイの子が、歩けるようになったりっていうのが、すごく見れるので。まあ、すごい、そこは、面白いし。	子どもの育ちや成長
	やっぱり、こう、自分がその保育を進めていく中でも、こうやってやったら、子どもがよー聞いてとか、あ、今よく見てるとか、いうのをすごく感じる時がある。っていう時には、まあ、嬉しいし、一緒にそこで、遊びが盛り上がった、楽しいしっていうのは、本当に瞬間的にありますかね。うん。とか、やっぱり、まあ、子どもがこういうことができるようになったら、保護者に言ったら、あ、そうなんです。家でね、みたく話がある、まあ、私は本当によろこぶんですけど、そういう風にできると、やっぱり嬉しいかな。	保護者との連携や支援
Dさん	2歳はなんかすごい成長していく過程で、なんか2歳はずっとオムツで、トイレトレーニングしていかんといけなよって先生に言われてとって、いやこの子ら本当に外れるん？っていう子が、一緒に何かしていく中で、何かのタイミングで外れて、出来ることとどんどん増えていく、んですよ。だから、そういうところを見ていく。出来なかったところが出来るようになったところを、一緒に喜べるっていう面白さかなって思う。	子どもの育ちや成長
	まあ絵本とかも、見てなかったけど、子どもと一緒に見ていく中でこの本面白くないとか、ちょっと重心に偏れる？かな。とか。はい。まあでも、デスクワークとかじゃなくて、動いたりとか。追いかけてこいたりとか、砂場遊びをしたりとか。遊びが仕事になるから。それが他の子に比べたら、他の一般職の子に比べたら、なんか平和でいいねってよく言われる。	行事・教材の共有体験
Eさん	やっぱり子どもの成長が目に見えたときとか、あとは発表会はすごい楽しかった。私自身が。かけあいがね、できるようになってきたら、ほんと。だから私が一番ノリノリでやってんじゃないか。なんかもう私が劇を一人で舞台上でしてるのが夢に出てきたって、いるぐらい私楽しんでやって、すごいあー。	行事・教材の共有体験
	私があの2歳から発表会ですんで、2歳は先生も舞台上にでるんです。でそれ私だった。まあベビーだから私なんですけど、だいたい若い方の先生が出て、ベテランの先生がピアノ弾くみたいな感じなんです。で、私出る人、だから練習も一緒にやる。でも最初はもう私が一人でいて、もう一人の先生が子どもにいて言わせるみたいな感じだったのが、だんだん私が言ったら、返してくれたり、私がいう前に次のことを次あれよと子どもたち同士でなんとかやんなんとかなうよって言う動物の子が、いーおーんって言わんと、ソウさん、いーおーんって言うんよ。って言うてるのがすごい面白くて、でそれをうまく私がつなげていくのもすごく楽しくて、もう発表会すごい楽しかったです。	
	保育のおもしろさ、うーん、やっぱり自分のクラスの子どもたちが、私の期待に応えてくれたとき。まあこっちが期待に応えてくれるように仕向けるんですけど、で、期待に応えられるように練習も一緒にするんですけど、やっぱりその期待して以上のことをしてくれたりしてくれるんですよ。そのときにやっぱり子どももすごいな、全然予想してた姿と違うわ、まあ全く逆に照れちゃうこともあるんですけど、まあそういうときは私たちの準備不足で。やっぱりあそこであれがいたよなとか。そういうなんか一個一個の積み重ねがやっぱり今おもしろいですね。	保育者の働きかけに対する子どもの反応
	そうかもしれないですよ。一人で20人近くをね、動かすことの、	集団づくり(学級経営)
	でも、毎朝、〇〇先生おはようって言う子がいるんです。私が毎日あいさつし続けるから。そしたら、もう私がなんかこう楽とかやったり、なんかお帳面見たりとかして、その子の声が聞こえないときに、〇〇先生おはよ、〇〇先生おはよ、〇〇先生おはよ、〇〇先生、〇〇先生、めっちゃ言うてるのがばつと聞こえてこめん、おはようみたいな。すっごくおもしろかったです。そういうのが、	保育者の働きかけに対する子どもの反応
	一生懸命話してくれてるんだ、この子はって。	子どもの育ちや成長

表7 保育の面白さ(2年目)

協力者	発言	概念
Aさん	まあ、先生っていう職業全部だと思んですけど、良くも悪くもその子、その家庭の人生を背負えるっていうか、まあ、支援できる。いろんな人の人生が垣間見れるんで、それも面白い。	保護者との連携や支援
	まあ、しんどいところもあるんですけど、まあ、しんどいところが大きい時もあるんですけど。いろんな人がいるなって。表裏一体ですけど、面白い、しんどいけど面白いなって思います。勉強にもなるし。人間関係のつぼんで、保育所って。まあ、小学校とかはあんまり、まあ、わかんないですよ、わかんないですけど。よりかはなんかおもしろいな、面白い人いっぱいおるなって思います。なんか人と関わるとしんどいけど関われんと生きていけないんで、やっぱり人って。なんかおもしろいって思います。なんで、あ、こういう言い方するんじゃないかと、さっきの批判とやっかみも思うんですけど、こういう考えもあるんじゃないかと。面白いですね、いろんな人の考え、いろんな人の思いが渦巻いてるんで、保育って。	保育に対する思いの多様性
	でもそんな中で理想はその子の幸せを願うってところではみんな一緒にの思いを持って仕事してるし、そんな仕事面白いと思いますけどね。理想はそこなんですけどね。その職場関係はもう円滑である前提で一緒に子どもの幸せを願って、その幸せを喜び合えたら理想なんです。全くないわけじゃないんですよ、そういう時が。あ、こうなったねとか、こういうことができるようになったね。すごいね。っていったらうれしいですよ。見よう側も。お母さんもお父さんも、家族も保育所もうれしいんで。	保護者との連携や支援
Bさん	日々子どもの姿が変わるので、成長だったりとか「あ、今日は機嫌が悪いな。」とかするのを近くで見ると、その成長だったらうれしいですし、「今日、あんまりよくないな。」っていう時でも、だんだん子どもと関係ができてくると、他の先生だったらずっとグズグズ言っていたけど、担任がきて、私がちょっと近くにおつたら落ち着けたとかっていうのがあったりすると、うれしいなって思う。そうですね。子どもが「せんせいすき。」って言うてくれたりとか、「家に帰っても私の話をしてください。」とかってうちのから聞いてたりすると、うれしかったりしますね。私が「ああ、ちょっと今日、怒りすぎたな。」って思っても子どもは「せんせい。」って言うてくるから、「ああ、なんか悪かったな。」とも思いながら、かわいくなって思ったり。	子どもの育ちや成長
	自分にとっても大事になります、そのクラスの子が。やっぱり自分のクラスの子が一番かわいいですし、この子らのこと大切だっているのは思いますね。	クラスへの愛着
Cさん	やっぱり子どもの成長を感じられるところかなと思うんですけど、去年みてた1歳の子が2歳になって延長でその子たちをみるんですけどしやべるようになってたりとか、1歳から2歳って成長が大きく見られる歳なのでこういうこともできるようになったんだっていうのを去年見てたから変わったなっていうのを感じたりとか、今みてる子は面白いと思ったらどんどん自分でする年齢なので保育所で折った折り紙を家で折って見せてくれたりとか、ちょっと難しいかなって思っていた鍵盤もいつの間にかできるようになってたりとか、子ども同士教え合っている間にかほうきができるようになってたりとかそういう姿はおもしろいなって思ってますね。あとこっちの声掛け次第で子どものやる気も違ってくるので、どう子どもたちに面白くと思わせるかかかっているというか、やっぱり子どもの心を惹きつけるのが大切なんだと思いますね。	子どもの育ちや成長
	飽きでもどれにしようかなって選んでると時間がかかるので「さっと取って」っていうんじゃなく「おみくじおみくじ！どれが出るか分からんよ」って言うときととてくれたり、ちっちゃいことですけど、上からこうしなさいって言うこともできるけどそうじゃなくていかに楽しんでやらせるかって。	子どもの心を惹きつける技
Fさん	子どもらが未知なことって多いじゃないですか。知らないことがいっぱいあって、そういうのを教えていくことで返ってくる反応が純粋でかわいいんです。すごいテンションなこと言ったりとか…。	子どもの育ちや成長
	クリスマス会に向けて帽子を作ったんですよ。肌色の画用紙を丸く切っておいてクレヨンで顔を描くようにしたんですよ、あと綿とかで眉毛とかお髷とか。で「これなーんだ」って綿見せたら、「綿毛」とか「お髷」って言うんですよ。「ぬいぐみとかクッションにも入ってるんですよ」って言ったら一生懸命考えて、ある女の子が「ほこり…？」って言ったんですよ。なんかもうほんと面白くて可愛かったです。子どもらも自分の知識を一生懸命出して、そういう結論になったというか…。そういうのが可愛いです。この前誕生会もあって、4、5歳と一緒になんですけど、5歳さんが年齢とか好きな食べ物を順番に言っていくんですよ。で3歳の番になって..たぶん食べ物の意識が強すぎて「私の名前はりんごです」って。「名前だよ！」って隣で教えて、なんとか終わって…。でも次の子は名前も年齢もすつとばして「〇〇君はみかんが好き」っていきなり言い出して…。すごいおバカに見えるんですけど、一つひとつが「可愛いなあ」って。	保育者の働きかけに対する子どもの反応

っていた。また、「絵本とかも見てなかったけど、子どもと一緒に見ていく中でこの本面白いなとか、ちょっと童心に返れるかな（略）。（保育は）デスクワークとかじゃなくて、動いたりとか。追いかけてこしたりとか、砂場遊びをしたりとか。遊びが仕事になるから。」（Dさん）の発話にみられるように、保育は遊びを中心とする生活の場である。保育者は子どもの発達に応じた教材を選定し、遊びの展開を考え、意図をもった環境構成を行っている。保育者自身も行事や遊び、教材を子どもと共に楽しむことで、保育の面白さを当事者として体験することにつながっていたと考えられる。また、日々の保育の中で見られる子どもの様子や変化を保護者に伝えたり、子どもを通して家庭を支援したりする（保護者との連携や支援）ことも保育の面白さとして挙げられた。例えば、「子どもがこういうことができるようになったよって、保護者に言ったら、あ、そうなんですよ、家でもね、みたいな話が、まあ、私は本当ちょろっとなんだけど、そういう風にとできるとやっぱ嬉しいかな。」（Cさん）や「先生っていう職業全部だと思んですけど、良くも悪くも、その子、その家庭の人生を背負えるっていうか、まあ、支援できる。」（Aさん）と発話にみられるように、初任保育者にとって、保育の中で見られた子どもの様子を伝えたり、家庭と共有できることは、保護者との信頼関係を築くことにつながり、子育てを行っている家庭の支援者として携わる喜びや責任を感じる瞬間であることがうかがえる。

まとめと今後の課題

本研究では新任の保育所保育士の1年目と2年目にインタビューを行い、保育者としての成長過程を明らかにすることを目的として調査を行い、仕事についてから身についた知識・技能、仕事の見通し、保育の面白さの3つの視点から分析を行い、概念を抽出した。これらの分析を踏まえて、就職後1年目および2年目における保育者の成長過程について考察する。

まず、仕事についてから身についた知識や技能では、実際に身についた知識や技能とこれから身につけるべき知識や技能の必要性に大別された。知識や技能そのものが身につくことも重要であるが、知識や技能の必要性についてメタな認識をすることは、今後の保育者としての成長を促すものであり、今後保育者を継続す

る上での動機づけになっていることが考えられる。今後は新たな必要性の認識をもった中で、どのようにその知識や技能を身につけていくかを検討する必要があると考えられる。

次に、今の仕事の見通しでは、仕事に関する見通しと、生活に関する見通しとに大別された。1年目は現在の仕事への理解や対応が中心であったのに対して、2年目では現在の仕事をある程度把握した上で見通しをもつという過程がうかがえる。また、公立保育所の場合は異動が毎年行われることもあり、それが環境変化への期待と不安を抱かせることが示された。

保育の面白さでは、子どもの成長や感情の共有といった子どもとのやりとりを通して得られる達成感ややりがい概念としてあげられた。全国保育士養成協議会（2009）では離職の原因として、子どもに関することがほぼ挙げられていないことと対照的である。今後は子どもを見る視点の変化とともに面白さの質的变化についても検討する必要があると考えられる。

また、坂井・山本（2015）で示された保育者のキャリアパターンで示された新卒2年目の危機については今回の調査での分析では抽出されなかったが、今後の調査にて分析を行いたい。その一方で、高澤他（2016）で母子生活支援施設職員への調査でみられた感情のコントロールなどが今回の発話から見られたことから、保育所という環境における成長過程と、ほかの児童福祉施設での成長過程との比較も今後の課題としてあげられる。

引用文献

- 厚生労働省（2016）平成28年社会福祉施設等調査の概況
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/fukushi/16/dl/kekka-kihonyou01.pdf>（閲覧日：2017年10月13日）
- 坂井敬子・山本睦（2015）公立保育園の園長経験者からみた保育者のキャリアと退職 心理学, 36(2), pp. 44-55
- 高澤健司・田丸敏高・高橋千枝・山田真世・久留嶋元気・今井裕太・木曾有香・中原沙友里（2016）母子生活支援施設職員の成長過程に関する基礎的研究 福山市立大学教育学部研究紀要, 4, pp. 55-61
- 全国保育士養成協議会（2009）「指定保育士養成施設卒業生の卒後の動向及び業務の実態に関する調査」報告書Ⅰ－調査結果の概要－ 保育士養成資料集, 50.

謝辞

調査の実施や分析にあたっては、調査協力者のみなさん、福山市立大学教育学部の学生のみなさんに多大なるご尽力をいただきました。ここに感謝申し上げます。

付記

本論文は2016年度、2017年度福山市立大学重点研究の助成を受けて実施された研究の一部である。また、本研究は2015年8月に福山市立大学研究倫理審査委員会の審査を受け承認されたものである。

(2017年10月23日受稿, 2017年11月24日受理)

The Basic Study on Growth Process of Newly Adopted Nursery Teachers

TAKASAWA Kenji ⁽¹⁾, YAMADA Mayo ⁽¹⁾, UHEYAMA Rutsuko ⁽¹⁾, and TAMARU Toshitaka ⁽²⁾

We interviewed newly adopted nursery teachers who graduated from four-year university to research their growth process as professionals. We analyzed the interviews from the viewpoint of their acquired knowledge and skills, their prospects of the job and the interest of nursing and child education. In acquired knowledge and skills, we found that they told actually acquired knowledge and skills and required knowledge and skills. In prospects of the job, we found that they have prospects of the work and the life. Teachers who work at public nursery school have both expectation and anxiety for personnel shift. In interest of nursing and child education, they are interested in children's growth and development and share of emotion with children.

Keywords : newly adopted nursery teacher, growth process, interview investigation, child welfare institution

⁽¹⁾Department of Childhood Education, Faculty of Education, Fukuyama City University

⁽²⁾Fukuyama City University